

## 中学校の部 優秀賞

四国防災八十八話 第40話 弟のおかげ

「弟のおかげ」を読んで

一本松中学校 1年 <sup>やました</sup>山下 <sup>はやた</sup>颯太

「すぐに津波が来る。早く逃げんと大変なことになる！」

僕は、こんな危機的状況を体験したことは一度もありません。なぜなら、住んでいる地域は海から遠く、山に囲まれた海拔の高いところにあるからです。地震による土砂災害の心配はありますが、津波に対する危機意識は低いと思います。反面、もしものときに冷静に行動できると思っています。そんな僕の危機意識と自信を打ち砕いたのが、この話でした。冷静な弟さんの行動と言葉に従ったおかげで、誰も命を落とすことなく、しかも一番早く山へ避難した話でした。後から避難した人たちは、素足のままだったり靴の左右が違っていたりするなど、ひどく取り乱した様子がかえりました。さらに遅れて避難した人たちは、全身が海水で濡れていたそうです。そして、「津波に追いかけられた。」と語っています。それだけ地震発生から津波到着までの時間は、予想以上に速いということです。そう考えると、大人でも判断を誤る緊急時にいち早く逃げる決断をした弟さんは、すごいと思います。そして、尊敬します。同時に、自分が同じ状況になったらと想像し、背筋が寒くなりました。「今まで大丈夫だったから逃げずに様子を見よう」と、過去にしがみつく考えは捨て、早く逃げる決断をすることが大切であることを思い知らされました。

また、僕の考えは甘いと感じたのは、僕自身がずっと同じ地域にいることを前提に考えていたことです。高校進学を考えると、早ければ二年後には、海の近くで生活しているかもしれません。そうなれば、地震後の津波を想定した避難を考えておく必要があります。緊急時の判断の難しさがよく分かった今、様々な状況に応じた避難方法を考え、事前の準備を怠らないようにしなければなりません。そして、何よりも命を守ることを最優先して「早く安全な場所に逃げよう」と心に深く刻みました。